

巻頭言

日本マインドフルネス学会 編集委員会（杉浦 義典¹ 伊藤 義徳² 菅村 玄二³）を代表して

杉浦 義典

早期公開：2016 年 4 月 1 日・発行 2016 年 12 月 28 日

この度、日本マインドフルネス学会の機関誌「マインドフルネス研究」の編集委員長の任をうけることになりました杉浦義典と申します。

今日、様々なメディアや書籍において、マインドフルネスが取り上げられるようになりました。国際的には、専門の学術誌が刊行され、2015 年の 1 年間に“mindfulness”をキーワードに含む 740 本の学術論文が公刊されました（PubMed による）。2016 年にはさらに論文が増え、その数は 3 月現在で 222 本に達しています（同）。こうした中、学術団体としての日本マインドフルネス学会の機関誌に求められる役割は、学術的な研究を通じて、マインドフルネスの理解と実践の質を高めていくことにあると信じています。

日本マインドフルネス学会の web サイトにある設立趣旨には、「本学会はマインドフルネスに関する科学的・学術的研究の発展に寄与するとともに、マインドフルネス実践の有効性と安全性を高めることを目指す」と明記されています。また、同 web サイトの越川房子理事長の挨拶には、「多くの方に本学会にご参加いただき、科学実証主義／エビデンスベースの枠組みの中で力を合わせ、一緒に日本社会と文化を背景にした介入プログラムの開発・工夫・実証そして発信を目指して活動し、この領域の発展に寄与していきたいと存じます」という言葉があります。そもそもマインドフルネス瞑想の背景となる仏教思想そのものが、信じることよりも探求することを重視していると言えます。ブッダは後世の私たちに、苦行などよりも研究を勧めている、というのは、ある意味では言い過ぎではありません。

研究は、その成果が流通して広く読まれ、建設的な批判を受け、追試や発展的検討がなされていくことで、その機能を果たすものです。そのような媒体となるため、「マインドフルネス研究」では以下のような取り組みを行います。

- ・完全にオープン・アクセスの電子ジャーナルとし、誰でも読める利便性を目指します。

¹ 広島大学大学院 総合科学研究科 総合科学専攻 行動科学講座

² 琉球大学 教育学部 生涯教育課程 心理臨床コース

³ 関西大学 文学部 総合人文学科 心理学専修

- ・ 厳密な査読・審査体制を敷きつつも、論文の受理から刊行までの時間短縮を図り、研究・実践の成果の迅速な公開を目指します。
- ・ 編集・制作業務には学術電子書籍専門の出版組織 ratik の編集者に加わってもらい、質の高い出来上がりを目指します。
- ・ 幅広い研究カテゴリーに対応した複数の投稿区分を設けます。予備的な研究や実践報告にも広く門戸を開くことを目指します。

マインドフルネスの研究は、心理学や医学など既存のディシプリンに止まらない部分もあります。新しい研究の形を模索するため、投稿区分は必要に応じて検討に付し、改善・発展させていこうと考えています。

ピアレビューというシステムはほとんどの学術雑誌で標準とされています。会員から投稿いただいた論文を、そのテーマに詳しい専門家に審査（査読）いただき、多くの場合は論文の修正・改稿を論文の著者にお願ひし、再度審査者が確認をする、というサイクルを繰り返します。それによって、掲載される論文の質を保つシステムです。「ピア」という言葉にあるように、論文の著者も審査者も専門家として対等なパートナーであると考えます。これもまた、サンガをほうふつとさせます。

このように「マインドフルネス研究」は会員の皆様とともに作り上げる雑誌です。多くの研究を投稿いただき、誌面がにぎわえば、おのずと雑誌の評価も高くなり、さらに多くの方に投稿していただけるようになります。このように「投稿された論文」で構成される学術雑誌が、他の分野や社会からのマインドフルネス学会やマインドフルネスそのものへの信頼をえるためには必須です。これは学問分野を問わない共通の前提です。そのため、オープン・アクセスという形式を採用しました。これも現在の学問の趨勢です。

会員の皆様には積極的に投稿をいただければと考えます。編集委員会では、投稿論文を審査する中で、論文の区分や審査のシステムも改善し、投稿者の方々とのパートナーシップをより効率的で質の高いものにすべく不断の努力を続けていきます。他方、会員の方が論文の執筆を思い立ち、執筆し、審査され、最終的に掲載されるのに（学問研究自体がそうであるように）相応の時間が必要になります。そのため、毎月発行される商業誌や広報誌よりも出来上がりに時間がかかること、また、第1号の発行に時間を要してしまったことをおわび致しますとともに、ご理解をいただければと存じます。とはいえ、現在の審査の進捗状況は順調な滑り出しをみせております。なお、2016年4月1日現在、投稿数は7本、そのうち、2本が採択にまでこぎつけました。

編集委員ともども、マインドフルネス研究を通じて、マインドフルネスの健全な発展に寄与したいと思ひます。皆様からのご投稿を心待ちにしています。